

FURUKAWA



株主の皆様へ

第146期のご報告

2012年4月1日～2013年3月31日

古河機械金属グループの事業領域	1
株主の皆様へ	2
今後の事業方針	3
機械事業と素材事業に注力	

特集 現場レポート	5
復興を支えるロックドリル製品	

事業部門別の概況	7
財務データ	9
会社概要及び株式の状況	10

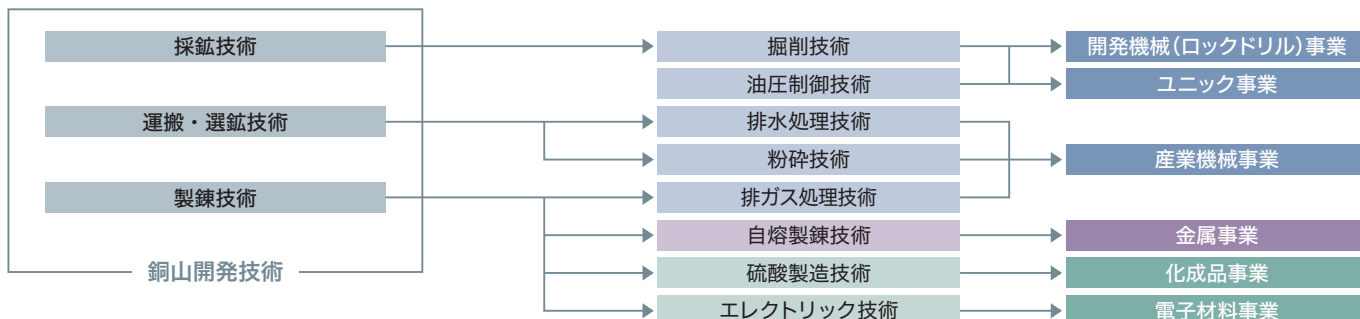
△ 古河機械金属株式会社

証券コード：5715

古河機械金属グループの事業領域

1875(明治8)年創業以来、当社は銅山事業を出発点に、常に時代の要請に応えるべくさまざまな事業を展開してきました。銅山開発で培われた当社のコア技術は長い歳月とともに進化発展し、現在の当社グループの事業領域の礎となっています。事業領域は大きく「機械」と「素材」に分かれ、あらゆる市場に製品を提供しています。

古河機械金属技術の系譜



Machinery



Material



株 主 の 皆 様 へ

株主の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り、
誠にありがとうございます。
ここに第146期(2012年4月1日から
2013年3月31日まで)の
決算の概要をご報告申し上げます。

代表取締役社長

宮川 尚久



代表取締役会長

相馬 幸義

当期の経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、東日本大震災の復興需要と、政府・日銀がデフレ脱却の方向性を示したことによる円安、株高を背景に、景気回復が期待されますが、海外景気の下振れが懸念となっております。

このような経済環境のもと、当社グループは産業機械、開発機械(ロックドリル)及びユニックの機械3事業を中心に、海外展開や国内の復興需要の取り込みとコスト削減、業務効率化などの経営施策を実行しました。

当社グループの売上高は、主としてユニック及び金属事業が売上を伸ばし、1,655億39百万円(対前期比79億73百万円増)、営業利益は33億63百万円(対前期比12億8百万円増)、経常利益は27億63百万円(対前期比14億94百万円増)となりました。特別利益に投資有価証券売却益9億93百万円、受取補償金12億63百万円、子会社株式売却益8億24百万円、特別損失に固定資産除売却損63百万円、減損損失3億31百万円他を計上した結果、当期純利益は29億76百万円(前期は16億59百万円の損失)となりました。

なお、当該期間において、塗料事業を担う株式会社トウペ及び燃料事業を担う古河コマース株式会社の全株式をそれぞれ譲渡したことにより、塗料及び燃料事業から撤退いたしました。

また、配当につきましては、2009年3月期以来4期ぶりに復配し、1株当たり2円とさせていただきました。

中長期的な戦略について

当社グループは、機械事業と素材事業を中心に、「機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進」並びに「新製品の事業化に向けた開発の促進」を戦略的課題と位置づけ経営を進めており、当面は機械事業を牽引役として、国内復興案件の対応及び海外展開の促進を図ることで着実に業績を積み上げていく一方、新素材の開発・事業化を急ぎ、将来の成長に向けた事業を育てていく所存です。

2014年3月期の連結業績につきましては、売上高1,500億円、営業利益47億円、経常利益30億円、当期純利益20億円を予想しております。

今後ともメーカーとしてのこだわりを深め、「成長への挑戦」をスローガンに「本格的なモノづくり、仕組みづくり」の追求を柱に収益力の向上と企業価値の増大を図ってまいります。

株主の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年6月

機械事業と素材事業に注力

当社は前期(2013年3月期)に塗料事業、燃料事業から撤退し、中核事業である機械事業と素材事業に注力する体制が整いました。

これまでの基本方針である

- 機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進
 - 新製品の事業化に向けた開発の促進
- をより一層推し進めていきます。

2012(平成24)年度

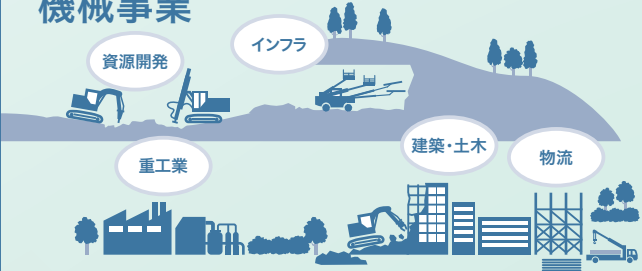
機械事業	産業機械
	開発機械 (ロックドリル)
	ユニック
素材事業	金属
	電子材料
	化成品
その他事業	塗料 → 2013年 3月撤退
	不動産
	燃料 → 2012年 10月撤退
	その他

2013(平成25)年度

機械事業	産業機械
	開発機械 (ロックドリル)
	ユニック
素材事業	金属
	電子材料
	化成品
その他事業	不動産
	その他

『機械事業』と『素材事業』に注力

機械事業



機械事業の主な市場領域は、資源開発、インフラ、建築・土木、物流の他、製鉄や製錬などの日本の発展を支える重工業に及びます。

機械事業においては、引き続き新興国や資源国に向けて、ロックドリルやユニック製品を中心に展開していき、国内では復興案件に注力していきます。

素材事業



素材事業の主な市場領域は、創業来の銅というベースメタルに加え、エレクトリック、IT・半導体産業、化学産業に及び、次世代を担う新たな産業にも目を向けています。

素材事業においては、更なる発展の素となる新素材の開発・事業化に注力していきます。

当面は機械事業を牽引役として着実に業績を積み上げ、
一方で、新素材の開発・事業化を急ぎ、将来の成長に向けた事業を育てていきます。

機械事業は国内復興案件への対応を強化

機械事業は海外展開の促進に加え、現在推し進められている復興案件への対応も強化していく方針です。

高台移転

高台移転においては、山を切り開くためのロックドリル製品や、岩石を破碎するための破碎設備、土砂を運搬するためのベルトコンベアなどの需要が見込まれます。



油圧クローラドリル



油圧ブレイカ



ベルトコンベア



スクリーン



クラッシャ

道路（橋、トンネル）

復興道路などの交通インフラ整備向けには、トンネル工事向けのロックドリル製品や電気集じん器、橋梁などの需要が見込まれ、資材の積載、輸送にはユニックが多用される見込みです。



トンネルドリルジャンボ



橋梁



トンネル工事用電気集じん器



ユニック

その他

下水処理場向けのポンプや、不整地での作業に適したミニ・クローラークレーンなど、当社機械事業が有する製品群が復興関連に大きく関わることが予想されます。



ポンプ



ミニ・クローラークレーン



復興を支えるロックドリル製品

トンネル工事で大活躍！

着工済みの復興道路、復興支援道路の
全工事で世界トップレベルのさく岩技術が活きる！

復興道路・復興支援道路
総延長 **584km**

- 既に利用している区間
- 現在、工事中の区間
- 現在、調査中の区間
- 平成23年の補正予算で新たに事業化された区間
- 既存道路の4車線化を計画している区間

※ 平成25年3月時点

平成23年補正予算新規事業化区間 **224km**

東日本大震災の1日も早い復興をめざし、国は「復興道路」「復興支援道路」の整備を急いでいます。

現在、着工済みの復興道路、復興支援道路では9件のトンネル工事が進められており、

そのすべてで当社のトンネルドリルジャンボが稼働。

今後予定されているトンネル工事でも、トンネルドリルジャンボの活躍が期待されます。

今回は、より大きなパワーとスピードでトンネル工事を円滑に進め、

被災地のインフラ整備の一翼を担うトンネルドリルジャンボをレポートします！





回転させながら、押しつけて、叩く！
この3つの動作で
最大限の力を生み出します！



トンネルドリルジャンボは、山岳トンネルの掘削工事において、発破用の火薬を充填する穴を掘るために使われます。なかでも重要な役割を果たすのが「ドリフタ」と呼ばれる油圧装置で、“**回転＋推力＋打撃**”の3つの動作を制御します。ドリフタによってドリルの先端は、1分間に150～200回転、推力は1～2トン、打撃は3,000回加わり、硬い岩盤に約3mの穴をスピーディに掘ることができるのです。このパワーとスピードがトンネル工事を支えています。

100年前に生まれた技術を進化させながら
世界トップレベルのモノづくりに挑戦しています！



1914

日本で最初に
さく岩機を製作



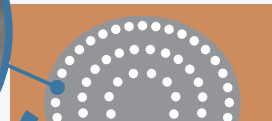
初期のトンネルドリルジャンボ



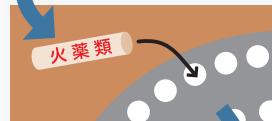
1875年に創業した当社は、1885年に銅鉱石の採掘作業のための輸入さく岩機を導入。その後現場の声をヒントに日本人の体形に合ったさく岩機を研究し、1914年に日本で初めて手持ち式さく岩機を開発しました。以来、当社のさく岩技術は高度成長期に新幹線や高速道路の山岳トンネル工事やインフラ整備にも多く使用され、日本の交通網の発展に大きく寄与しました。そして現在も——100年前に生まれた技術を進化させながら世界トップレベルのモノづくりに挑戦し続けています。

トンネルを掘る仕組み

トンネルドリルジャンボで
トンネルの形に穴を掘ります。



穴に火薬類を仕込みます。



仕込んだ火薬類を
トンネルの中心部から
時間差で爆発させて
岩盤を崩します。



復興の“縁の下の力持ち”として活躍するロックドリル製品

道路やビル等の建設に必要な不可欠な“碎石”、その碎石は山の岩盤を砕き造られますが、そこでもロックドリル製品が活躍しています。今後、高台移転用の住宅地開発のため山を切り開く際にも使用される見込みです。



油圧クローラドリル

岩盤に発破用の火薬を装填する穴を縦方向に掘る機械で、碎石現場で岩盤を崩すために使用されます。



油圧ブレーカ

クローラドリルで崩した大きな岩石を小割するためのさく岩機で、油圧ショベルのアタッチメントとして使用されます。

事業部門別の概況

Machinery

産業機械 事業



	売上高				営業利益 (損失)			
(百万円)	0	5,000	10,000	15,000	-500	0	500	1,000
2011/3				10,655	-29			
2012/3				12,949			708	
2013/3				12,894			778	

橋梁は官需が伸び増収となりましたが、一般産業機械等は民需が厳しく減収となりました。なお、震災の被災地で高台移転工事に伴う土砂の破碎・運搬設備を受注しました。

開発機械 (ロックドリル) 事業



	売上高			営業利益 (損失)		
(百万円)	0	15,000	30,000	-1,000	0	1,000
2011/3			23,880	-350		
2012/3			24,143		333	
2013/3			23,305	-67		

国内は、復興需要や公共工事の前倒し等により増収となりました。海外は、欧州、北米、南米、アフリカ向けが増収となりましたが、中国の景気減速の影響を受けたアジア諸国向けが大きく減収となりました。

Material

金属 事業



	売上高			営業利益		
(百万円)	0	50,000	100,000	0	1,000	3,000
2011/3			79,979		1,494	
2012/3			68,114		308	
2013/3			77,944		282	

電気銅は、震災被災により減産となった前年に比べ、販売量が大きく増加しました。

電子材料 事業



	売上高			営業利益 (損失)		
(百万円)	0	5,000	10,000	1,000	0	1,000
2011/3			7,147		1,279	
2012/3			4,615	-234		
2013/3			4,987	-262		

主力製品である高純度金属ヒ素及び結晶製品は、原発事故の風評被害に加え、半導体不況の影響もあり需要が低迷しましたが、コイル製品は車載向けが順調に推移しました。

ユニック 事業



	売上高			営業利益 (損失)		
(百万円)	0	10,000	20,000	-1,000	0	1,000 2,000
2011/3		12,490		-186		
2012/3		16,105			928	
2013/3		20,651			2,212	

国内普通トラック登録台数は復興需要やエコカー補助金などにより高水準を維持し、ユニッククレーンも売上を順調に伸ばしました。またミニ・クローラクレーンや船舶架装用クレーン、ユニックキャリアの需要も好調でした。

化成品 事業



	売上高			営業利益		
(百万円)	0	5,000	10,000	0	500	1,000
2011/3		5,076		269		
2012/3		5,187		251		
2013/3		5,093		304		

硫酸は価格改定の影響で売上高は増加し、めっき用酸化銅は生産能力向上と新規顧客の獲得により増収となりましたが、亜酸化銅は船底塗料の需要低迷により大幅な減収となりました。

Others

塗料 事業



	売上高			営業利益 (損失)		
(百万円)	0	10,000	20,000	-500	0	500
2011/3		15,040		-93		
2012/3		14,874		-329		
2013/3		15,078		65		

電子部品向け高性能塗料や環境配慮型塗料及び溶剤焼付塗料の売上は堅調に推移しました。なお、2013年3月27日をもって事業売却により塗料事業から撤退しました。

不動産・燃料 その他

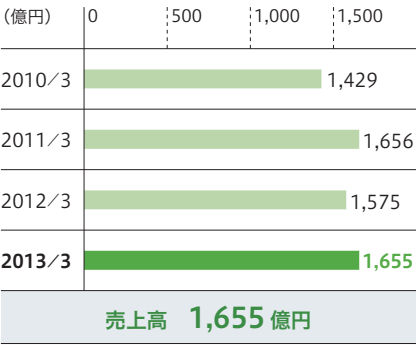


	売上高				営業利益		
(百万円)	0	5,000	10,000	15,000	0	500	1,000
2011/3		11,368			486		
2012/3		11,576			249		
2013/3		5,582			128		

不動産事業は、大阪地区のオフィスビルの空室率が高く減収となりました。なお、日本橋室町東地区再開発プロジェクトは、2014年春の開業に向け順調に進んでいます。既に撤退した燃料事業の数値は、第2四半期連結累計期間のものです。

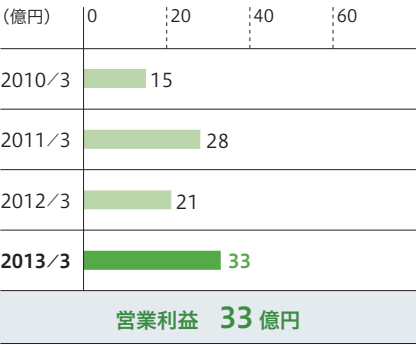
財務データ

売上高 (連結)



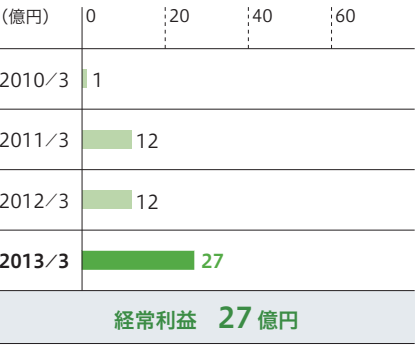
主としてユニック事業、金属事業が順調に売上を伸ばし、売上高は1,655億39百万円(対前期比79億73百万円増)となりました。

営業利益 (連結)



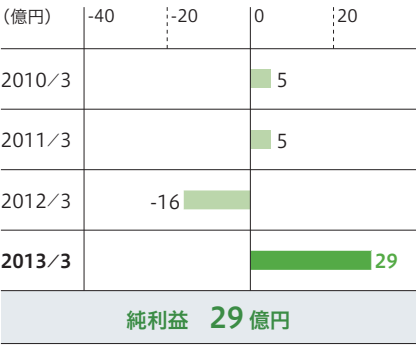
主としてユニック事業の増益により、営業利益は33億63百万円(対前期比12億8百万円増)となりました。

経常利益 (連結)



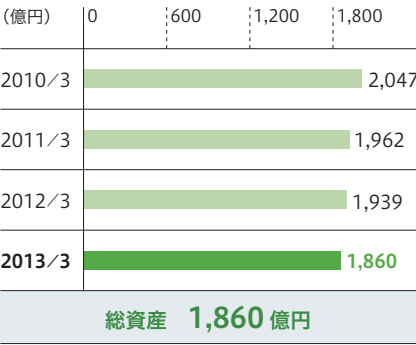
為替差益など営業外収支が改善したことにより、経常利益は27億63百万円(対前期比14億94百万円増)となりました。

純利益 (連結)



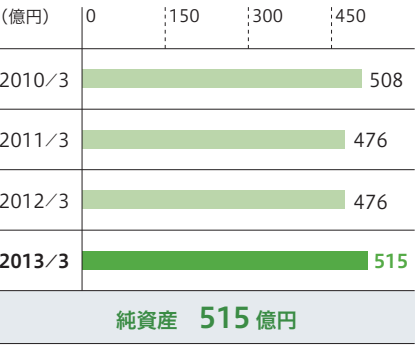
特別利益に投資有価証券売却益9億93百万円、受取補償金12億63百万円、特別損失に減損損失3億31百万円他を計上した結果、当期純利益は29億76百万円(前期は16億59百万円の損失)となりました。

総資産 (連結)



連結子会社(株)トウペの保有全株式の売却により、同社及び同社の連結子会社の資産が当期末の連結貸借対照表から除外されたことを主因として、総資産は1,860億76百万円(対前期末比78億94百万円減)となりました。

純資産 (連結)



利益剰余金に加え、その他の包括利益の増加により、純資産は515億7百万円(対前期末比38億38百万円増)となりました。

会社概要及び株式の状況（2013年3月31日現在）

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

創 業 1875（明治 8）年 8 月
設 立 1918（大正 7）年 4 月
資 本 金 282 億 818 万円
従業員数 2,342人（連結）

主な事業所

本社
東京都千代田区丸の内
二丁目2番3号
（丸の内仲通りビル）
電話（03）3212-6570

支社・支店・事業所

大阪支社 名古屋支店
東北支社 足尾事業所
九州支店 筑豊事務所
札幌支店

研究所

技術研究所
素材総合研究所
半導体装置事業室
ナイトライド事業室

主要なグループ会社

古河産機システムズ（株）
古河ロックドリル（株）
古河ユニック（株）
古河メタルリソース（株）
古河電子（株）
古河ケミカルズ（株）

取締役及び監査役

（2013年6月27日現在）

代表取締役会長 相馬 信義
代表取締役社長 宮川 尚久
専務取締役 座間 学
常務取締役 中村 晋
常務取締役 松本 敏雄
社外取締役 吉田 政雄
取締役 大田 彰則
取締役 岩田 穂
常勤監査役 江本 善仁
常勤監査役 幸崎 雅弥
社外監査役 石原 民樹
社外監査役 友常 信之
社外監査役 初瀬 良治

執行役員

（2013年6月27日現在）

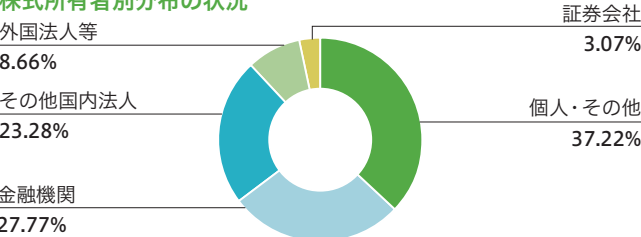
専務執行役員 座間 学
常務執行役員 中村 晋
常務執行役員 松本 敏雄
上級執行役員 大田 彰則
上級執行役員 岩田 穂
上級執行役員 市村 謙二
上級執行役員 渡邊 修
上級執行役員 猿橋 三郎
執行役員 渡邊 泰史
執行役員 松戸 茂夫
執行役員 三村 清仁
執行役員 加藤 直樹
執行役員 池部 清彦
執行役員 久野 佳成

株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	404,455,680 株
株主総数	31,788 名

株式所有者別分布の状況



大株主（上位10名）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
朝日生命保険相互会社	27,923	6.90
清和綜合建物株式会社	15,034	3.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	14,600	3.60
株式会社損害保険ジャパン	12,429	3.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	11,961	2.95
中央不動産株式会社	9,712	2.40
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
横浜ゴム株式会社	8,510	2.10

株価の推移



株 主 メ モ

■ 本社

〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話 (03) 3212-6561 (法務部)

■ 事業年度の末日 3月31日

■ 定時株主総会 6月

■ 定時株主総会の基準日 3月31日

■ 期末配当の基準日 3月31日

中間配当を実施するときの基準日は9月30日

■ 公告掲載のホームページ <http://www.furukawakk.co.jp> (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

■ 単元株式数 1,000 株

■ 株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■ 特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■ 郵便物送付先及び各種お問合せ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

■ ■ 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■ ■ 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

WebサイトでもIR情報をご覧くださいませ！

株主・投資家情報ページ <http://www.furukawakk.co.jp/ir/>

ブランディング&動画サイトを公開しました！

Welcome to the Furukawa Planet

<http://www.furukawakk.co.jp/fkkplanet/index.html>

当社をより知っていただくために作成した、初の動画中心コンテンツ『Welcome to the Furukawa Planet』を2013年2月に公開しました。トップ画面のイラストが時間で昼夜逆転するなど、ユニークで親しみやすいサイトです。動画は現在公開中のPV映像をはじめ、今後も拡充予定で、YouTubeでもご覧いただくことができます。



企業ホームページ「最優秀サイト」に選出されました

当社ホームページが、日興アイ・アール(株)(以下、日興IR)の「2012年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、「最優秀サイト」に初選出されました。IRサイトの分析・評価に定評のある日興IRが、全上場企業3,570社を対象に調査したもので、「分かりやすさ」「使いやすさ」「情報の多さ」の3つの評価基準を軸に偏差値化し評価したものです。



FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)

電話 (03) 3212-6570

<http://www.furukawakk.co.jp>

